

南海部郡平井文書の役割

三 木 俊 秋



大分県地方史第五号にせ載られた拙稿「大友義統の古文書」の中に上に掲げた花押を用いた古文書のうちで、義統が豊前鎮庄に発向した時の古文書が県下に次の通り五通あつて、この文書の年代が天正十年が天正十一年か何れの年であるか色々調べたがどうしても比定出来なかつた。

文書名	郡別	年月日	内 容 概 略	宛 名
一万田	大分	10・11	去月24日下毛郡間田切寄打崩に分捕高名、前に宇佐郡佐野切寄に疵つく、忠儀感し入る	一万田市進
豊田	速見	10・28	豊後国発向之刻在陣下毛郡佐野切寄で疵つく、又入る一人庇つく忠儀感し入る	長田主殿助
〃	〃	10・28	豊前国発向之刻在陣下毛郡佐野切寄で挫疵つく忠儀感し入る	小野尾河内入道
田原流造	西国東	12・20	豊前表佐野切寄打崩之刻分捕高名忠儀感し入る	田原左近丞
長野末夫	速見	1・16	安心院表にて本庄中務少輔同陣軍勞感し入る	長野源内充

所が去る三月二十三日大分県史料刊行会が、南海部郡の古文書調査を行つた際、同郡宇目村木浦鉾山から発見された学界未知の新史料に

平井覚昭文書と言うのが三通ある。この中の一通に次の様な文書がある。

(包紙ウハ書)

「平井河内入道殿 義 統」

(花押)

天正十一年十月十六日豊前国下毛郡是則切寄挫之刻平井宮内少輔鎮

親類被官或分捕或戦死被疵着到加被見畢

頭一 平井 隼人佐 討之

榎町 縫殿助 鎧疵

衛藤 玄蕃充 矢疵

衛藤五右衛門 同

七右衛門 同

藤十郎 刀疵

又右衛門 石疵

平井隼人佐儀從

新右衛門 戦死

同 半 介 石疵

以上

この文書の出現によつてはじめて、前記五通の文書の年代が比定出来た。大友義統が豊前鎮庄に向つたのは天正十一年であつたのである。この時の喜びは何とも例え様のないものであつた。この意味においても南海部郡平井文書の発見は大きな收穫であつた。この時代比定の出来ない古文書も常に整理しておけばいつかは何かの手がかりによつて思はぬ所から解決がつくものだと言ふ事を痛感した。一通でも多く新しい古文書が発見されれば、それだけ過去の真暗な部屋の中が、少しづつ明るく見えてゆくのである。

(筆者は大分県立教育研究所研究員兼大分県史料編集員)